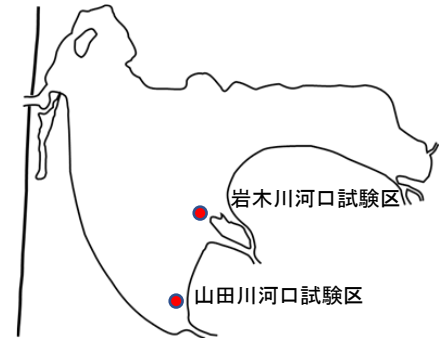


ヤマトシジミの食害影響試験 十三湖山田川河口①

潜水鴨の仲間やコイ、ウグイなどヤマトシジミを捕食する生物が少しずつ明らかになってきていますが、シジミはいったいどれぐらい食害によって減少しているものなのでしょうか？

湖底をネットで覆い、魚などからの食害を防ぐ試験区をつくり自然の状態と比べてみました。試験は2007年7月から9月にかけて十三湖の山田川河口と岩木川河口で行いました。

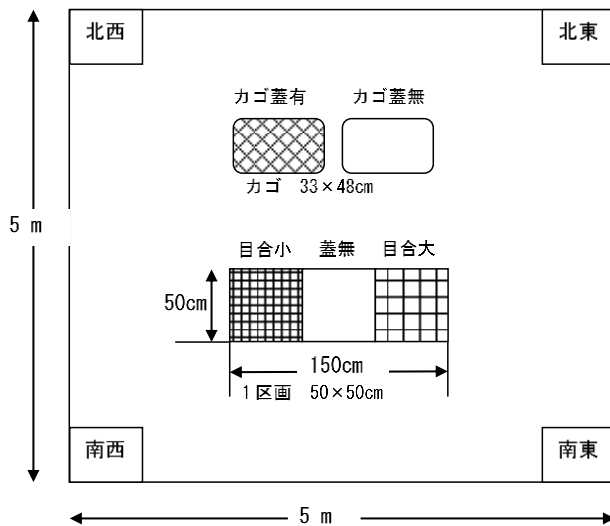


十三湖の試験区設置場所

食害影響試験 山田川河口試験区の概要

食害の影響を確認する試験は、十三湖の南部の山田川河口に近い所に5×5mの広さの区画を設けて行いました。この区画の中に、50cm×50cmの試験区が3区画連続した施設（3連目合別試験区）と、独立したカゴ（内寸481×322×286mm）2個を下図のように設置しました。

3連目合別試験区は、食害防止のネットの目合を変えてあり、大きい目合のネットで覆った区と小さい目合のネットで覆った区、そしてネットを付けない開放区からなります。また、カゴでは目合の小さいネットで上部を覆った区と、開放したままの区を設けました。



試験区画と食害防止ネット設置状況図



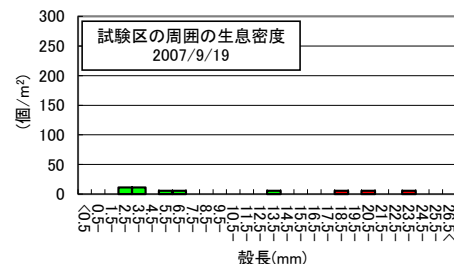
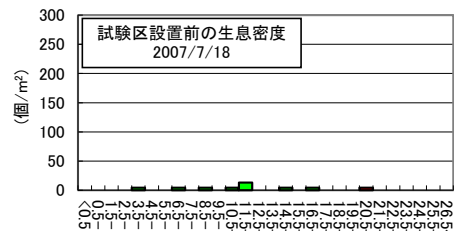
食害防止ネット設置状況写真

試験区の周囲の状況

試験は、2007年7月18日から9月19日まで行いました。7月18日、試験区設置前にエクマン採泥器（15×15cm）を使い、5×5mの区画の四隅と中央の5カ所で各2回底質を採取し、1mm目合のフルイに残ったシジミの殻長を測定しました。また終了時の9月19日には四隅の4カ所で各2回底質を採取し同じように処理し、測定しました。

開始時のシジミの平均密度は、44.4個/m²、また終了時の密度は55.5個/m²と低く、大きな変化はありませんでした。

（注：試験結果を比較するために、1m²あたりの個数に換算しています）



試験区周囲のシジミ殻長組成